

モニタリング結果報告書 (令和5年度)

1. 施設概要

施設名	県民ホール（本館・神奈川芸術劇場）、音楽堂		
所在地	県民ホール本館：横浜市中区山下町3-1 神奈川芸術劇場：横浜市中区山下町281 音楽堂：横浜市西区紅葉ヶ丘9-2		
サイトURL	県民ホール本館： https://www.kanagawa-kenminhall.com/ 神奈川芸術劇場： https://www.kaat.jp/ 音楽堂： https://www.kanagawa-ongakudo.com/		
根拠条例	県民ホール本館：神奈川県民ホール条例 神奈川芸術劇場：同上 音楽堂：神奈川県立音楽堂条例		
設置目的(設置時期)	県民ホール本館：県民の文化芸術の振興及び福祉の増進を図るため (昭和50年1月) 神奈川芸術劇場：同上 (平成23年1月) 音楽堂：県民の音楽芸術の振興及び福祉の増進を図るため (昭和29年11月)		
指定管理者名	公益財団法人神奈川芸術文化財団		
指定期間	R3.4.1 ~ R8.3.31 (2021年) (2026年)	施設所管課	文化課

2. 総合的な評価

総合的な評価の理由と今後の対応
(一体としてのコメント) 第4期指定管理期間の3年目である令和5年度は、提案書に定めたミッションに基づき、文化芸術の県民への鑑賞機会の提供や人材育成、各館のブランディングの強化、地域との連携等に取り組んだ。令和5年5月の新型コロナウイルスの感染症法上における位置づけ変更等の影響で、県民ホール本館や音楽堂の利用者数は対前年度比で増加したが、神奈川芸術劇場は令和6年度公演舞台準備等の影響で減少した。 また、「新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」の運用を廃止後も、引き続き館内の消毒等必要と思われる感染防止対策に取り組み、安心安全な施設運営に努めた。 利用者満足度調査の結果は令和4年度から引き続き良好であったが、回収率は依然として低く、課題を残す結果となった。 これらの結果から、3館一体としての3項目評価をA評価とした。
■県民ホール(本館・神奈川芸術劇場)について 令和5年度は、県民ホール本館、神奈川芸術劇場ともに、提案書に基づいて適切に管理運営が行われた。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、県民ホール本館の利用者数は対前年度比で15.8%増となった。また、利用者満足度調査については、令和4年度から引き続き高評価を維持した。結果、利用者の満足度がS評価、利用状況がA評価、収支状況がB評価で、3項目評価をA評価とした。
■音楽堂について 令和5年度は、提案書に基づいて適切に管理運営が行われた。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこともあり、利用者は対前年度比で38%増となったが、目標値には届かなかった。利用者満足度調査については、令和4年度から引き続き高評価を維持した。結果、利用者の満足度がS評価、利用状況がC評価、収支状況がA評価で、3項目評価をB評価とした。

＜各項目の詳細説明＞					
■ 県民ホール(本館・神奈川芸術劇場)について					
◆管理運営等の状況 提案に基づき、施設の保守点検、清掃、保安警備、管理物品の管理等の業務が行われた。 また、新型コロナウイルス感染症の感染症法における位置づけ変更等に基づき、「神奈川県民ホールにおける新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」の運用を廃止したが、その後も引き続き館内の消毒などを継続し、安心安全な施設運営に努めた。					
◆利用状況 新型コロナウイルス感染症の感染症法における位置づけ変更等により、県民ホール本館は、目標値523,200人に対し、利用者数は534,789人となった。一方、神奈川芸術劇場は、令和6年度公演舞台準備等の影響で、目標値188,000人に対し、利用者数は180,930人であった。2館合計では、目標値711,200人に対し、利用者数は715,719人であり、目標を達成したためA評価とした。					
◆利用者の満足度 県民ホール本館及び神奈川芸術劇場では、令和5年11月と12月の2か月間にわたり調査を実施した。前年度並みの回答数を得ることができ、2館ともに上位2段階の回答割合が100%となったため、S評価とした。 一方で、回収率は21.8%（令和4年度：29.4%）にとどまり、引き続き回収率の向上に努める必要がある。					
◆収支状況 収支比率を見ると、県民ホール本館が98.41%、神奈川芸術劇場が100.09%であった。光熱水費高騰等の影響を受け、2館を合わせた収支比率は99.33%となったため、B評価とした。					
◆苦情・要望等 神奈川芸術劇場において、手すりが邪魔で舞台が見づらい等、座席からの見え方に関する意見が多く寄せられた。対応として、手すりがある席、バルコニー席については、「注釈付き座席」などと設定し、事前に説明をしてから販売するなどの対応をとっている。					
◆事故・不祥事等 会員宛メッセージの誤送信があり、チェック体制の強化、ホームページでの謝罪文掲載など対応にあたった。また、県との事前協議が必要な工事について、事前協議を経ずに執行されていた事案が3件あった。県から書面により再発防止を求めたほか、毎年度末に指定管理者が実施した工事の内訳一覧を提出してもらうなど、チェック体制の強化に努めた。					
◆労働環境の確保に係る取組状況 県による監査、労働基準監督署からの指摘事項はなかった。					
■ 音楽堂について					
◆管理運営等の状況 提案に基づき、施設の保守点検、清掃、保安警備、管理物品の管理等の業務が行われた。 また、新型コロナウイルス感染症の感染症法における位置づけ変更等に基づき、「新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」の運用を廃止したが、その後も引き続き必要な感染対策を継続し、安全安心な施設運営に努めた。					
◆利用状況 新型コロナウイルス感染症の感染症法における位置づけ変更等により、利用者は前年度より38%増加し、111,662人となった。しかし、目標の132,800人には届かず、目標達成率は84.1%となったため、C評価とした。					
◆利用者の満足度 11月と12月の2か月間にわたり調査を実施した。前年度並みの回答数を得ることができ、上位2段階の回答割合が100%となったため、S評価とした。 一方で、回収率は37.5%（令和4年度：40.0%）にとどまり、引き続き回収率の向上に努める必要がある。					
◆収支状況 収支比率は、光熱水費高騰等の影響を受けたものの100.36%となり、A評価とした。					
◆苦情・要望等 利用申し込みや事前打ち合わせの簡略化、WEB予約の実現を望む意見が寄せられた。現状、どちらも実現は難しいが、利用者の利便性向上のため、検討を続けていく。					
◆事故・不祥事等 指定管理者に起因する事故等はなかった。					
◆労働環境の確保に係る取組状況 県による監査、労働基準監督署からの指摘事項はなかった。					

3. 3項目評価の結果

A	3項目評価 (施設別)		利用状況 (項目6参照)	利用者の 満足度 (項目7参照)	収支状況 (項目8参照)	3項目評価とは、3つの項目(利用状況、利用者の満足度、収支状況)の評価結果をもとに行う評価をいう。 S：極めて良好 A：良好 B：一部改善が必要 C：抜本的な改善が必要
	<参考> 県民ホール	A	A	S	B	
	<参考> 音楽堂	B	C	S	A	

4. 定期・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	遅滞はなかったが、時折、報告に誤りや不足があり、再提出や修正を求めることがあった。
現地調査等 の実施状況	実施頻度	現地調査等の内容
	月3～4回	施設の劣化・修繕必要箇所の確認、自主事業のモニタリング等
意見交換等 の実施状況	実施頻度	意見交換等の内容
	月3～4回	苦情や懸案事項への対応、指定管理業務の対応、県民ホールのあり方検討意見交換会等
随時モニタリングにおける 指導・改善勧告等の 有無	○有・無	指導・改善勧告等の内容
		メールや招待状の宛先氏名誤りが頻発したため、9月に口頭注意を行った。 県との事前協議が必要な工事について、3件が事前協議を経ずに執行されていたため、県から書面により再発防止を求めた。 また、利用者満足度調査について、内容誤りや誤字脱字が多数みられたため、口頭注意の上、再提出を求めた。

5. 管理運営等の状況

〔 指定管理業務 〕

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>●管理物件の維持管理に関する業務</p> <p>多数の来館者・利用者を迎える公共施設として、施設・設備を安定稼働させ、良好な空間を保ち、また、災害等の緊急時にも迅速に対応し、来館者・利用者の安全を確保する。</p> <p>県民ホール本館、神奈川芸術劇場は開館からの経過年数の違いから、必要な保全の段階も異なっているため、それらを適切に管理し、利用者に安全・快適に利用してもらうことが必要である。そのために、以下2つを基本的な考え方とする。</p> <p>①3館の運営者として標準化した業務基準・安全基準を持つこと</p> <p>②開館からの経過年数や特性の異なるそれぞれの建物・設備を熟知し長期的視点を持って管理すること</p>	<p>計画に基づき、保守点検、清掃、保安警備、管理施設の受付・案内、舞台関係管理運営、管理物品の管理等の業務を適切に実施した。また、主要な委託業務を近接する県民ホール本館及び神奈川芸術劇場で一体的に運用することで効率化に努めた。</p> <p>施設管理及び運営を行う職員の経験・ノウハウを、3館全体で共有し、修繕等について県へ助言を行ったほか、県民ホール及び神奈川芸術劇場の舞台技術職員の持つ経験・ノウハウを3館で共有し、標準的な安全管理に関する意識を持つことで、安心して利用いただける施設運営を行った。</p> <p>令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類」に見直されたことに伴い、県民ホール本館、神奈川芸術劇場共に、施設ごとに定めた「新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」は廃止としたが、施設の特性により、引き続き必要な感染対策を継続することとし、安全・安心に施設を利用できる環境を維持することに努めた。</p>	<p>県民ホール本館は、利用者数、利用料収入ともにコロナ禍前の水準にまで回復し、神奈川芸術劇場も高い利用率を維持した。</p> <p>また、施設利用追加料金のキャッシュレス決済を導入し、施設利用者の利便性向上に努めた。</p> <p>神奈川芸術劇場は、「令和5年度地域創造大賞（総務大臣賞）」を受賞するなど、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに貢献していることが確認された。</p> <p>また、アトリウムでの飲食スペースの充実など、来館者の利便性向上に努めた。</p>

【県民ホール本館】

令和5年4月27日に、新型コロナウイルス感染症対策本部が決定した「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」の同日付の廃止と、感染症法における位置づけの変更に基づき、5月8日を以て「神奈川県民ホールにおける新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」の運用を廃止した。引き続き館内の消毒、来館者の検温・手指消毒への協力依頼等を継続し、安全性の確保に努めた。併せて、シルバー人材センターに委託し、定期的に大小ホール客席の消毒作業を行った。

前年度に増して老朽化による設備の障害発生頻度が高まっている。一例として電話交換機の故障が発生し、県民ホール及び財団本部の電話は直通番号でつながることができず、すべて代表番号で受電する必要がある、大変な手間がかかっている。修理には高額な費用がかかるため、臨時で電話回線を引くなどの対応も行った。また、小ホールのパイプオルガンについても不具合箇所は一通り修理を行ったが、オーバーホールの必要な時期を経過しており、完全な状態とは言えない。引き続き利用者にその状態を十分に周知するとともに、休館する令和7年3月末日までの利用に影響が出ないように、慎重に施設設備の状況を把握し、管理等を行っていく。

運営面においては、利用者ニーズに応え、多様化する催し物の特性に合わせて利用時間や南口玄関の開扉時間を柔軟に運用したほか、施設利用料の追加料金の精算等にキャッシュレス決済を導入するなど、利用者サービスの向上に引き続き努めた。

会場案内においては、子どもから高齢者、障がいをもつ方々など様々な来場者にきめ細やかな対応を行い、高齢者や足の不自由な方に対しての業務用エレベータによる案内や、大ホール主共催公演での3階席へのエレベータの直通運転を継続して行った。

自動車来館者のための駐車場の管理運営業務を行った。障がい者対応として、引き続き来館の際の事前予約を実施し、サービスの向上を図った。

【神奈川芸術劇場】

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受けて、制限の多かった感染対策を徐々に緩和し、安全・安心に観劇ができる環境を維持するための基本的な感染対策を続けつつ、再び劇場にお客さまの笑顔や活気が多く溢れる日常を取り戻していった1年となった。

施設の維持管理においては、主要な委託業務を近接する県民ホールと一体的に運用することで効率化に努めるとともに、利用状況に対応した設備点検計画を作成し、効率的な業務実施体制を整備した。開館から12年が経ち、ホール吊物機構やITV・音声連絡設備などの更新時期となり、県と綿密な連携を取りながら1ヶ月程度ホールを閉めて大々的に部品交換等の改修をおこない、快適な劇場空間の維持に努めた。

	<p>これまでコロナ禍の感染症対策で活用してきた多数の亚克力パーテーションを撤去し、リユース活動の一環として、劇場のサインボードケースに加工し再活用するアップサイクルをおこなった。また、環境への配慮として、劇場のチケット封筒や名刺をFSC認証を受けた紙製のものへ変更したり、チラシ封入のナイロン袋にECOマーク入りの環境負荷が少ない素材を導入するなど、劇場として環境保全を意識した取組を心がけた。</p> <p>利用者に居心地のよい空間を提供できるよう、アトリウムでの飲食スペースの充実やビュッフェの拡張販売、また施設利用追加料金のキャッシュレス決済の導入など利便性を高めるサービスを提供した。</p> <p>「令和5年度地域創造大賞（総務大臣賞）」を神奈川芸術劇場が受賞した。この賞は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰するもので、高度な舞台芸術の広域拠点施設として尽力したことが評価された。</p> <p>合同施設の管理組合構成員であるNHK横浜放送局や県とは定期協議の場を設け、アトリウムの利用調整を図ったほか、感染症対策に関して積極的に情報交換をし、合同施設一体となった対応を行った。</p> <p>地下駐車場の管理運営を行った。駐車場構内や自動二輪駐輪場の写真をホームページに掲載し、屋内駐車場であることの安心感等をアピールし、周辺の屋外コインパーキングとの差別化を図るとともに、当日上限料金の適用などを継続し利用向上に努めた。</p>	
<p>●管理施設の利用承認に関する業務</p> <p>令和3年度からの指定管理期間を機に、「各館のブランディングの強化と3館一体の推進」「あらゆる人々に開かれた場」「地域との連携の強化」「厳しい経済環境への対応」の実現につながるよう、取り組む。</p>	<p>計画に基づき、各館の特性に合わせた施設運営業務を適切に実施した。</p> <p>【県民ホール本館】 利用率は、大ホール83.4%、小ホール85.8%、大会議室77.4%、ギャラリー81.4%と、各施設ともコロナ以前の水準にほぼ回復した。また、入場者数は、534,789人で、令和4年度実績(461,853人)より大幅に増加しており、コロナ禍前の水準に回復した。同様に利用料収入も252,604千円で、令和4年度を上回った。今後も、利用率、利用料収入の向上に努めていく。</p> <p>公益目的の利用が見込まれない場合は、大・小ホール、会議室の機能を活かした各種大会、講演会、会議等の利用を促し、その収益を公益目的事業の財源に充当した。</p> <p>【神奈川芸術劇場】 令和5年度のホール利用率は95.2%と高い水準を保ち、一部の公演では感染症の影響で上演中止があったものの、柔軟に対応し上演機会の確保に最大限に努めた。</p> <p>令和5年度は劇団四季の特定長期貸館（ミュージカル「クレイジー・フォー・ユー」）を迎え、約7万人の集客となり、県民への鑑賞機会の提供と賑わいをもたらした。</p>	

●音楽、演劇、舞踊その他の舞台芸術及び美術の振興に関する業務

神奈川芸術文化財団は、4つのミッション「創造に挑む」「感動を分かち合う」「つねに考える」「未来につなぐ」を柱とした芸術文化事業を展開し、県民の方々へ上質で豊かなプログラムを提供するとともに、参加していただくなどの活動を通じ、社会や地域に創造性や活力が育まれることを目指していく。

令和3年度より新たに社会連携ポータル部門を設置し、①専門人材育成プログラム②学校教育へのアプローチ③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ④地域との連携強化、の4つの機能を強化する。

年間を通じて、4つのミッションを踏まえた芸術文化事業を展開し、多彩で良質な鑑賞機会、芸術体験の機会を提供したほか、芸術の可能性を考察する取組、未来につなぐ人材育成の取組等を多角的に実施した。

【県民ホール本館】

県民ホールが実施した芸術文化事業は14事業/36演目(37公演)・10企画(13回)・6展覧会であり、入場者数等は43,252人であった。

プロフェッショナルなアーティストによる高水準の舞台芸術事業として、英国の舞台芸術で最も権威のあるローレンス・オリヴィエ賞を受賞した作品の念願の初来日公演として、キッドピボット『リヴァイザー／検察官』を招へいした。2日間で約3,000人を集客し、世界最高峰の舞台芸術を県民に提供することができた。

そのほか大ホールでは、オープンシアターの企画としてダンス劇「マリーの夢」や、スターダンサーズ・バレエ団によるリラックスパフォーマンス「白鳥の湖」&「迷子の青虫さん」、神奈川フィルハーモニー管弦楽団と日本を代表する華やかなアーティストが集結する「ファンタスティック・ガラコンサート」を実施し、高水準のエンターテインメント性で来場者の満足度を向上させることができた。

小ホールでは「C×(シー・バイ)」シリーズとして、気鋭の作曲家と演奏家が時代を超えた名作に挑む「C×C(シー・バイ・シー)」、中田恵子オルガン・アドバイザーの監修による「C×Organ(シー・バイ・オルガン)」、大塚直哉がバロック鍵盤音楽の魅力を紹介する「C×Baroque(シー・バイ・バロック)」を実施し、小ホール事業の活性化を図った。

令和6年度オペラシリーズ公演「ローエングリン」の関連講座として、イタリアの作曲家サルヴァトーレ・シャリーノ作品を紹介し、本公演への興味関心を高める充実した内容を届けた。

ギャラリーでは、神奈川県美術展のほか、気鋭の現代作家6人による企画展『味／処』を行った。企画展では、「味わい(趣や情緒)」と「処(空間や場所)」というキーワードを軸に、味覚、視覚、聴覚、嗅覚、触覚の五感全てに訴えかける、味わいの集う空間を創出した。関連企画として、アーティストとキュレーターとのギャラリートークやパフォーマンス、また蕎麦屋「味奈登庵」店内での作品展示などの多彩なイベントを実施した。

県域ではアウトリーチ型オペラ公演として、「みんなでたのしむオペラ「ヘンゼルとグレーテル)」(県民ホール小ホール、寒川町、鎌倉市)を実施し、県内の文化施設と協働し、更に文化芸術を拡大する一助となるよう努めた。また地域に向けて終日全館を開放する「オープンシアター2023」では、公演事業に加えてバックステージツアー、ワークショップを実施し、また関連事業としてダンスワークショップ(鎌倉市)も行った。

社会連携ポータル部門との連携により、インターンシップの受け入れを協働し、県民ホールらしい多角的かつ実践的なプログラムを提供した。

JAPAN LIVE YELL project神奈川県アートキャラバンコンソーシアム2023では、本年度のラインアップを記念したプロモーション動画を公開した。神奈川県内6か所（横浜市、鎌倉市、小田原市、平塚市、横須賀市、相模原市）の公共劇場、劇場周辺の地域と連携し、劇場の魅力を県内外に広く発信した。

【神奈川県芸術劇場】

神奈川県芸術劇場が実施した芸術文化事業は19事業／29演目（205公演）・27企画（46回）・1展覧会であり、入場者数等は53,810人であった（国内各地で開催した巡回公演を除くと42,795人）。

5月には5類感染症となった新型コロナウイルスであったが、なお感染者は発生し、一部の公演は中止となった。しかし全公演関係者の不断の努力により、その影響を最小限に留めた。

長塚圭史芸術監督の3年目として、引き続き、劇場を「ひらいて」いくこと、豊かなプログラムを提供する枠組みとしてシーズン制を設けること、また創作環境と劇場の未来を考えること、この3つの方針を掲げ、多様な作品制作とその発信に取り組んだ。

プレシーズンにおいては、5月に、令和3年度に上演したタニノクロウ作・演出「虹む街」の続編「虹む街の果て」を創作上演した。神奈川県在住の外国人を多く出演者として起用し、多様性、異文化の共存の可能性を示す上演となった。また、初演時のセットを着色する作業を、県民参加のワークショップでおこなったことは、劇場をひらいていく試みとして有意義であった。

例年開催しているキッズプログラムでは、伊藤郁女振付のダンス作品「さかさまの世界」、前年度に初演した松井周作演出による演劇「さいごの1つ前」、根本宗子作・演出の音楽劇「くるみ割り人形外伝」の3作品の創作上演をおこなった。異なるジャンルの作品を揃え、また事前ワークショップや劇場外へ出向いての試演会などもおこない、子どもたちに多様な体験を提供した。

9月からのメインシーズンにおいては、『貌（かたち）』をシーズンタイトルとし、そこから想起される多様な上演をおこなった。開幕を飾った長塚圭史芸術監督演出の「アメリカの時計」では、世界恐慌で国のかたちが崩れていくアメリカを描き、現代日本との符号を感じさせた。演劇界注目の倉持裕作、杉原邦生演出で上演された

「SHELL」は、奇想天外な設定の中でフレッシュなキャストが、若さの儚さと強さ、若さの「かたち」を表現し、注目を浴びた。

継続的に取り組んでいるKAAT EXHIBITIONでは、写真家浅田政志の作品展を実施した。神奈川県に暮らす人々の貌（かお、すがた）を映した新作写真群は、きわめて演劇的な表現となり、見る者の記憶を揺さぶった。

横浜国際舞台芸術ミーティング (YPAM)では今回も様々な作品が上演され、特に、イタリアのコンテンポラリーダンスを紹介したショーケースは、多様な世界の価値観に出会う機会を観客に提供した。またYPAMと時期を合わせ上演した日韓共同制作「外地の三人姉妹」は、よい作品を、劇場また県民の財産として残し活かしていく再演の取組として成果を上げ、海外からの演劇関係者への紹介の機会となった。

12月にホール、1月に全国各地で上演した、筒井康隆原作の「ジャズ大名」は、生演奏を交えた上演として、芸術性と娯楽性を高いレベルで両立させ成果を上げ、高い評価を受けた。続いて、県内巡演企画であるカナガワ・ツアー・プロジェクトを令和3年度に続いて実施し、中スタジオのほか、県内5カ所で上演した。作演出の長塚芸術監督が自ら取材し創作した「三浦半島の人魚姫」「箱根山の美女と野獣」の二本立て上演は、広く県内に、演劇、舞台芸術の楽しみ、悦びを伝えるものとなった。2～3月に上演した「スプーンフェイス・スタインバーグ」は、7歳の少女を演じる一人芝居を、二人の実力派女優がダブルキャストで演じ、小山ゆうなの演出と相まって評判を呼んだ。

アーティストが創作を試行するための企画であるカイハツ、アトリウムを主たる会場とするフレンドシッププログラム、バックステージツアー、障がいを持つ方への鑑賞サポートなど、活用できるリソースを配分しながら、劇場を「ひらいて」いくための、また劇場の未来を考える取組を積み重ねている。

より多くの県民に足を運んでいただくための「県民割」をすべての主催事業で実施し、好評を得た。また、広報誌KAAT PAPERの発行、ウェブラジオであるRadio KAATによる発信にも引き続き取り組んだ。

【社会連携ポータル部門の取組】

財団のミッション「感動を分かち合う」、「未来につなぐ」の達成のため、専門人材育成プログラム、学校教育へのアプローチ、あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ、地域との連携を強化する機能の4つのアプローチで、各館事業と協働し取組を進めた。令和5年度は、これまでの2年間の取組を継続しつつ、鑑賞サポートを軸としたインクルーシブアプローチや地域のさまざまな団体との連携・協力をさらに発展させられるよう取組を進めた。鑑賞機会が少ない子どもたちの公演への招待を進めるとともに、だれもが芸術文化に親しむことができる鑑賞環境の

●その他設置目的を達成するための業務

構築に取り組んだ。社会や地域の課題解決に向けて、芸術文化や文化施設に求められている役割は大きく、引き続き社会と芸術をつなぐ窓口＝ポータルとなるべく、当部門に望まれる役割、活動を模索していく。

【情報誌の発行】

情報誌「神奈川芸術プレス」を9月と3月の2回、各回18,000部発行した。内容は財団の主催事業に限らず、県域の芸術文化や文化施設、さらには産官学領域での取組を広く紹介した。また読者に芸術文化への親しみをより感じてもらうために、文化と社会の架け橋になるような特集テーマを設定。社会的関心の高い子ども向けプログラム・インクルーシブの取組なども前年度に引き続き紹介した。

スポーツや文芸、観光、産業、行政、教育研究機関等幅広い分野のインタビューや読み物を掲載することで読者の幅も広がっており、結果的に財団の取組をこれまで届けられなかった層に訴求できている。配布場所は、駅広告ラックや書店、音楽教室などに増やし、配布率や回収したアンケート等から読者ニーズを分析し、今後の配架場所や冊子内容にも活かしていく。またWEB版も制作することで、冊子の入手が困難な方にも広く届けることができている。

【チケットセンター運営】

県民ホール・神奈川芸術劇場・音楽堂で開催される公演のチケット販売、及び主催公演の票券管理補助業務を行うためにチケットセンターの運営を行った。チケット販売においては運用実績のあるチケット販売システム

(ゲッティ)を継続して利用した。また、インターネットや電話による通信販売に加え、3館での窓口販売を行った。電話販売においては、単にチケットの販売にとどまらず、インターネットによる購入方法の説明、公演や会場周辺に関する案内なども行い利用者サービスの向上を図った。

令和5年度からは、主催公演の全てにおいて電子チケット(チケットれすQ)に対応した。

主催公演のチケットの販売促進の一環として、各種団体・会員組織向けのインターネットを利用した割引販売を継続して行うとともに、芸術劇場では、全主催事業で県民向けの割引を行った。

【会員組織運営】

芸術文化の普及、鑑賞機会の提供の拡充を目指し、インターネットを利用して24時間チケットの予約・購入が可能な無料の会員登録制度「かながわメンバーズ(KAme)」を運営し、情報提供やサービス提供を行った。

	<p>2週間に1回の定期メールマガジン配信および適宜行う臨時配信による最新のチケット発売情報などの提供とともに、会員限定の先行予約サービスを実施した。令和5年度のかながわメンバーズ新規登録者数は14,672人、年度末時点での会員総数は132,849人であった。</p> <p>【外部資金調達】 事業内容や広報活動等の一層の充実のため、国庫補助金や助成金など外部資金の獲得に努め、さらに広く当財団の活動趣意に賛同いただける企業・個人からの支援をいただくための活動を行った。</p> <p>*令和5年度獲得実績 <補助金・助成金> 日本芸術文化振興会（文化庁）「舞台芸術等総合支援事業」1件 55,776千円、地域創造「地域の文化・芸術活動助成事業」3件 21,289千円ほか。 <賛助会員>（3館合計） 68者 計5,840千円（法人、個人、永年個人合計） <個別協賛・その他> 公演、展覧会個別協賛、一般寄付、小口寄付等 3,006千円 広告協力 300千円</p>	
--	---	--

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等
<p>リフレッシュ・サービス (実施目的) 主催事業公演等開催時に、来館者サービスとして、ホール内ビュッフェやロビー等で飲食物等の販売を行い、来場者に開場時間や休憩時間も快適に楽しく過ごしていただくことを目的とする。</p>	<p>【県民ホール本館】 新型コロナウイルス感染症にかかるガイドラインが撤廃されたことに伴い、5月27日、28日「キッドピボット」、12月29日「ファンタスティック・ガラコンサート2023」、2024年2月3日「スターダンサーズ・バレエ団」の3公演で、ロビーにて飲食物等の販売を行った。</p> <p>【神奈川芸術劇場】 コロナ禍でホール6Fビュッフェ営業を停止していたが、観客への利便性向上のため、11月よりホールで開催する主催・提携公演の開場時間に合わせ、劇場併設レストランがアトリウムにカウンターを設営し、ビュッフェ出張販売を開始した。コーヒー等の飲み物に加え、軽食、焼き菓子等を取扱っている。 アトリウムでの軽食販売は、公演を鑑賞されないお客様も気軽に立ち寄ることができ、アトリウムでお客様が飲み物を購入し談笑されている姿が多く見受けられた。「ひらかれた劇場」としてお客様へのサービス向上に努めている。</p>

6. 利用状況

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満
A	

	前々年度	前年度	令和5年度
利用者数 県民ホール本館	335,833	461,853	534,789
利用者数 神奈川芸術劇場	214,380	215,112	180,930
対前年度比 県民ホール本館		137.5%	115.8%
対前年度比 神奈川芸術劇場		100.3%	84.1%
目標値 県民ホール本館	392,400	457,800	523,200
目標値 神奈川芸術劇場	141,000	164,500	188,000
目標達成率 県民ホール本館	85.6%	100.9%	102.2%
目標達成率 神奈川芸術劇場	152.0%	130.8%	96.2%

目標値の設定根拠： 経営改善目標（第6次経営改善計画内）

利用者数の算出方法（対象）： 主催事業は指定管理者が確認、共催・提携・貸館事業は主催者からの報告による（対象者：施設への来館者、利用者）

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

＜備考＞
令和2年度第3回第三セクター等改革推進部会（令和3年3月29日開催）における経営改善目標の策定の中で、提案時の目標値を一部変更し、今後5年間（令和3年度～令和7年度）の目標値を設定した。

7. 利用者の満足度

評価	《評価の目安》 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上 A：70%以上～90%未満 B：50%以上～70%未満 C：50%未満 ※評価はサービス内容の総合的評価の「満足」回答割合で行う。
S	

満足度調査の実施内容	協定に定めた調査内容	実施結果と分析
		(1) 簡易アンケート 管理施設の窓口等に常時用紙を備え、管理施設の利用者等に対して、簡便な方法で常時実施するアンケート (2) 詳細アンケート 年1回、時期を定めて、より詳細な質問項目のアンケートを管理施設の利用者等へのアンケート用紙の配布及び管理施設ホームページにおいて実施し、結果を分析するアンケート

[サービス内容の総合的評価]

質問内容 今回、施設をご利用いただいた全体的な印象をお聞かせください

実施した調査の配布方法 用紙配布・WEB 回収数/配布数 22 / 101 = 21.8%

配布(サンプル)対象 公演等の主催者

		満足	どちらか といえば 満足	どちらか といえば 不満	不満	合計	満足、不満に回答が あった場合はその理由
サービス 内容の総 合的評価 の回答数	県民ホール本館	19	1			20	
	神奈川 神奈川芸 術劇場	1	1			2	
回答率	県民ホール本館	95.0%	5.0%				
	神奈川 神奈川芸 術劇場	50.0%	50.0%				
前年度の 回答数	県民ホール本館	16	4	1		21	
	神奈川 神奈川芸 術劇場	3	1			4	
前年度 回答率	県民ホール本館	76.2%	19.0%	4.8%			
	神奈川 神奈川芸 術劇場	75.0%	25.0%				
回答率の 対前年度 比	県民ホール本館	124.7%	26.3%				
	神奈川 神奈川芸 術劇場	66.7%	200.0%				

(複数回実施した場合は、平均値を記載。)

<備考>

8. 収支状況

評価	≪評価の目安：収支差額の当初予算額が0円の施設≫ 収入合計/支出合計の比率が、S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B (概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマ イナスが生じている)：85%未満
B	

[指定管理業務 県民ホール本館]

(単位:千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	622,614	177,797	117,285	備考の とおり	917,696	917,696	0	
	決算	622,614	217,357	138,717	備考の とおり	978,688	996,856	-18,168	98.18%
前年度	当初予算	623,978	230,000	114,244	備考の とおり	968,222	968,222	0	
	決算	623,978	233,230	148,624	備考の とおり	1,005,832	1,067,873	-62,041	94.19%
令和5年度	当初予算	626,821	247,000	113,564	備考の とおり	987,385	987,385	0	
	決算	626,821	252,604	147,757	備考の とおり	1,027,182	1,043,739	-16,557	98.41%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和5年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

【その他収入の主な内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入：23,407、補助金等収入：28,800 等

(前々年度・決算) 事業収入：35,600、受託収入：40,000、補助金等収入：28,457 等

(前年度・当初予算) 事業収入：52,337、補助金等収入：24,500 等

(前年度・決算) 事業収入：47,235、受託収入：23,500、補助金等収入：37,065 等

(令和5年度・当初予算) 事業収入：32,016、補助金等収入：31,650 等

(令和5年度・決算) 事業収入：33,686、受託収入：39,000、補助金等収入：29,201 等

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	668,582	144,125	543,503	備考のとおり	1,356,210	1,356,210	0	
	決算	668,582	170,409	493,835	備考のとおり	1,332,826	1,325,573	7,253	100.55%
前年度	当初予算	665,617	175,565	454,469	備考のとおり	1,295,651	1,295,651	0	
	決算	665,617	190,637	433,018	備考のとおり	1,289,272	1,280,919	8,353	100.65%
令和5年度	当初予算	662,242	190,701	426,978	備考のとおり	1,279,921	1,279,921	0	
	決算	662,242	191,647	394,964	備考のとおり	1,248,853	1,247,715	1,138	100.09%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和5年度/

前年度/

前々年度/

<備考>

【その他収入の主な内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入: 440,777、補助金等収入: 50,500 等

(前々年度・決算) 事業収入: 266,584、補助金等収入: 89,894、負担金収入: 68,075 等

(前年度・当初予算) 事業収入: 341,487、補助金等収入: 51,200 等

(前年度・決算) 事業収入: 281,663、補助金等収入: 65,156 等

(令和5年度・当初予算) 事業収入: 243,735、補助金等収入: 73,550 等

(令和5年度・決算) 事業収入: 231,103、補助金等収入: 47,743 等

〔 合計 指定管理業務 〕

(単位:千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入 の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	1,291,196	321,922	660,788	備考のとおり	2,273,906	2,273,906	0	
	決算	1,291,196	387,766	632,552	備考のとおり	2,311,514	2,322,429	-10,915	99.53%
前年度	当初予算	1,289,595	405,565	568,713	備考のとおり	2,263,873	2,263,873	0	
	決算	1,289,595	423,867	581,642	備考のとおり	2,295,104	2,348,792	-53,688	97.71%
令和5年度	当初予算	1,289,063	437,701	540,542	備考のとおり	2,267,306	2,267,306	0	
	決算	1,289,063	444,251	542,721	備考のとおり	2,276,035	2,291,454	-15,419	99.33%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位:千円)

令和5年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

【その他収入の主な内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入: 464,184、補助金等収入: 79,300 等

(前々年度・決算) 事業収入: 302,184、補助金等収入: 118,351 等

(前年度・当初予算) 事業収入: 393,824、補助金等収入: 75,700 等

(前年度・決算) 事業収入: 328,898、補助金等収入: 102,221 等

(令和5年度・当初予算) 事業収入: 275,751、補助金等収入: 105,200 等

(令和5年度・決算) 事業収入: 264,789、補助金等収入: 76,944 等

9. 苦情・要望等

県民ホール本館 該当なし

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件		
		件		
職員対応		件		
		件		
事業内容		件		
		件		
その他		件		
		件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

分野	報告件数	概要	対応状況
施設・設備	1 件	駐車場に掲示している1日最大料金に関する表示がわかりにくい。	記載はあるが、わかりづらいため、今後大きい文字での追加表示を検討していく。
	50 件	ホール3階客席の座席の前にある手すりが邪魔で舞台が見えづらい、バルコニー席から舞台が見切れる、など座席からの見え方に関してのご意見。	手すりがある席、バルコニー席については、「注釈付き座席」などと設定し、事前に説明をしてから販売するなどの対応をとっている。また、構造上見えづらい席についてはご意見をいただきやすい。そのため、事前に座席からの見え方をイメージできるように、「KAATバーチャルツアー」という3Dビュー（360°VR体験）というツールを作成し、販売時や来場前に事前に座席を確認いただけるよう、HPにて公開する準備を行った（令和6年4月23日HPに公開済み）。
職員対応	件		
	件		
事業内容	電話 1 件	上演時間をHP等で早く教えてほしい。	事前に上演予定時間をホームページに記載するようにしている。また、SNS（X等）でも上演時間を記載し発信するよう努めている。
	対面 1 件	神奈川県民割のチケットをインターネットで販売してほしい。	ご要望を多くいただいたので、令和6年度メインシーズンの演目（「リア王の悲劇」）より、インターネットでの神奈川県民割引チケットの販売を始めるよう、準備を進めた。
その他	対面 1 件	終演後にアーティストやスタッフと話をしたり、作品の感想などを話す交流会のような機会を設けてほしい。	オンライン小口寄付への支援者を対象に長塚圭史芸術監督との懇談会にご招待した。また、シーズンチケット購入者を対象に、ラインアップ発表会への招待をおこなった。今後も、劇場の取組に参加する機会を引き続き設けていく。
	件		

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

10. 事故・不祥事等 □ 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
8月28日	①主催公演情報に関するダイレクトメッセージを、かながわメンバーズ会員宛に約5,000件送付した。しかし、うち約300件はダイレクトメッセージ送信不可設定の会員であった。 ②令和5年10月3日付で県に報告書を提出した。 ③県民ホールホームページ上に謝罪文を掲示した。また、個人情報データを抽出する際には、複数職員でのチェックを徹底することとした。 ④ダイレクトメッセージ配信停止要望が複数あった。 ⑤システムから送付先情報を抽出する際に、担当者が抽出条件を誤った。 ⑥無し
10月30日	①基本協定書100万円以上の工事を指定管理者で執行する場合には、事前に県と協議を行うことを基本協定書で定めているが、令和5年度執行の3件の工事について、事前協議の申し出がないまま執行されていた。 ②令和5年10月31日付で、指定管理者に対し書面により再発防止を求めた。 ③毎年度末に、指定管理者が指定管理施設において実施した工事の内訳を一覧で提出してもらうこととした。 ④無し ⑤担当者及び関係職員の認識不足、失念。 ⑥無し
10月30日	①支出事務において、職員が立て替えて支払ったタクシー代2件、1,400円及びレターパック交換手数料1件、126円について、立替金の請求期限後に請求が行われていたことが、県の財政援助団体監査で判明した。 ②財政援助団体等監査にて、監査委員より指摘を受けた。原因や再発防止策等の措置状況をまとめた書類の提出を求めた。 ③経営調整会議において、全部署に注意を促した。 ④無し ⑤担当者及び管理監督者による進行管理が不十分であった。また、複数職員で確認する体制がなかった。 ⑥令和6年3月21日
10月30日	①会計事務処理において、退職給付引当金の計上に当たり、退職手当の一部を引き当ての対象に含めていなかったため、令和4年度末における退職給付引当金の残高が16,104,595円計上不足であった。 ②財政援助団体等監査にて、監査委員より指摘を受けた。原因や再発防止策等の措置状況をまとめた書類の提出を求めた。 ③「退職手当の調整額」分についても退職手当の基本額の計算と同様に算定して引当金を算定することとし、令和5年度決算及び令和6年度予算を調整した。 ④無し ⑤退職手当のうち「退職手当の調整額」分については、勤続年数や自己都合退職かどうかなど、対象職員の退職時の状況で支給額が変動することから、引当金としての合理的な計上基準を見い出せず、計上していなかった。 ⑥令和6年3月21日

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

11. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。

4. 定期・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告 確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	なし	遅滞はなかったが、時折、報告に誤りや不足があり、再提出や修正を求めることがあった。
現地調査等 の実施状況	実施頻度	現地調査等の内容
	月3～4回	施設の劣化・修繕必要箇所の確認、自主事業のモニタリング等
意見交換等 の実施状況	実施頻度	意見交換等の内容
	月3～4回	苦情や懸案事項への対応、指定管理業務の対応、県民ホールのあり方検討意見交換会等
随時モニタリングにおける 指導・改善勧告等の 有無	有・ 無	指導・改善勧告等の内容

5. 管理運営等の状況

[指定管理業務]

事業計画の主な内容	実施状況等	実施状況に関わるコメント
<p>●管理物件の維持管理に関する業務</p> <p>多数の来館者・利用者を迎える公共施設として、施設・設備を安定稼働させ、良好な空間を保ち、また、災害等の緊急時にも迅速に対応し、来館者・利用者の安全を確保する。</p> <p>必要な保全を適切に管理し、利用者に安全・快適に利用してもらうことが必要である。そのために、以下2つを基本的な考え方とする。</p> <p>①3館の運営者として標準化した業務基準・安全基準を持つこと</p> <p>②開館からの経過年数や特性の異なるそれぞれの建物・設備を熟知し長期的視点を持って管理すること</p>	<p>計画に基づき、保守点検、清掃、保安警備、管理施設の受付・案内、舞台関係管理運営、管理物品の管理等の業務を適切に実施した。</p> <p>施設管理及び運営を行う職員の経験・ノウハウを、3館全体で共有し、修繕等について県へ助言を行ったほか、県民ホール及び芸術劇場の舞台技術職員の持つ経験・ノウハウを3館で共有し、標準的な安全管理に関する意識を持つことで、安心して利用いただける施設運営を行った。</p> <p>令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類」に見直されたことに伴い、施設ごとに定めた「新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」は廃止としたが、施設の特性により、引き続き必要な感染対策を継続することとし、安全・安心に施設を利用できる環境を維持することに努めた。</p> <p>施設面では大きな工事はなかったが、各設備や部品の経年劣化が見られ、6月にインターカムシステム、8月にピンスポットライトの更新等、更新や交換が主な年度となった。また令和3年度から課題になっていた客席扉の修理を行った。</p>	<p>利用者数、利用率、利用料収入すべてにおいて、前年度から増加したが、利用率については平成30年度の大規模改修に伴う休館以前の水準には戻っておらず、課題を残す結果となった。</p> <p>公益目的の利用（芸術文化に係る公演等）が見込まれない場合は、ホールを講演会等で貸し出すなど、収入増につながるよう努めた。</p>

<p>●管理施設の利用承認に関する業務</p> <p>令和3年度からの指定管理期間を機に、「各館のブランディングの強化と3館一体の推進」「あらゆる人々に開かれた場」「地域との連携の強化」「厳しい経済環境への対応」の実現につながるよう、取り組む。</p>	<p>計画に基づき、各館の特性に合わせた施設運営業務を適切に実施した。</p> <p>令和4年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響が減少し、施設利用率の回復が見られる年となったが、平成30年度の1年間の改修休館以前の水準（平成29年度以前：84.9～92%）にはまだ戻っておらず、引き続き館としての分析や努力が求められる。 [利用率：令和3年度63.4%⇒4年度83.1%⇒5年度84%]</p> <p>「前川建築見学ツアーin音楽堂」は、ボランティアグループbridgeと協力して引き続き実施し、例年通り好評を得た。また令和4年度にトライアルとして実施した、目の不自由な方に向けた建築ツアーを発展させ、年齢、国籍、障がいに関わらず一緒に参加できることを目指した「ゆっくりめぐる建築ツアー」を実施。令和4年度に過年度の寄附金で制作した、紅葉ヶ丘県立文化施設（青少年センター、図書館、音楽堂）の配置が触ってわかる「触地図」等を活用し、また木のホールの影響を聴覚で体感するため、ツアーの最後にCD鑑賞を採り入れる等の新しい試みに着手するとともに、今後の活動の更新へ向けた検討を行った。</p> <p>紅葉ヶ丘公立文化施設5館の連携活動、通称「紅葉ヶ丘まいらん」では、令和5年11月上旬にスタンプラリーを中心にした合同イベントを実施した。参加5館等を回遊するほか、写真パネル展示や各館の特色を生かした見学会を開催し、紅葉ヶ丘一帯に親しんでいただけのような発信を行った。音楽堂としては11月3日（金祝）に「ミニコンサート付フリー見学会」を実施し、無料でピアノ演奏や館内見学ができるしつらえて、新しい客層に訴求する取組を行った。</p> <p>公益目的の利用（芸術文化に係る公演等）が見込まれない場合は、ホールを講演会や研修会等での利用に貸出し、その収益を公益目的事業の財源に充当した。近年ホールを使用したドラマや映画の撮影、ホワイエ等建物の空間を使った雑誌や広告の撮影の要望も増えており、こうした例も含めて利用料の増に寄与するよう活用している。</p>	
<p>●音楽、演劇、舞踊その他の舞台芸術及び美術の振興に関する業務</p> <p>神奈川芸術文化財団は、4つのミッション「創造に挑む」「感動を分かち合う」「つねに考える」「未来につなぐ」を柱とした芸術文化事業を展開し、県民の方々へ上質で豊かなプログラムを提供するとともに、プログラム参加などの活動を通し、社会や地域に創造性や活力が育まれることを目指していく。</p> <p>令和3年度より新たに社会連携ポータル部門を設置し、①専門人材育成プログラム②学校教育へのアプローチ③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ④地域との連携を強化の4つの機能を強化する。</p>	<p>年間を通じて、4つのミッションを踏まえた芸術文化事業を展開し、多彩で良質な鑑賞機会、芸術体験の機会を提供したほか、芸術の可能性を考察する取組、未来につなぐ人材育成の取組等を多角的に実施した。</p> <p>音楽堂が実施した芸術文化事業は13事業/37演目（48公演）・20企画（25回）であり、入場者数等は25,312人であった。</p> <p>開館65周年を機に開始した、音楽堂のプレゼンスを全国または首都圏において再度高めていくという事業方針に沿い、上質性、先進性、国際性とオリジナリティにあふれたクラシック音楽を主としたレギュラーラインアップを、主催事業と共催事業を連動させて展開し、若い世代や地域に向けては、新しいジャンルの音楽や、他ジャンルの芸術との協働も含めた発信を行い、一流室内楽ホールとしてのブランドイメージを構築することに努めた。</p>	

フラッグシップとなる音楽堂室内オペラ・プロジェクトでは、鈴木優人指揮バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル『ジュリオ・チェーザレ』を、気鋭の演出家・佐藤美晴の演出で実施、チケットは完売となった。

もう一つのフラッグシップ、音楽堂ヘリテージ・コンサートでは、ドイツリート歌手として知られるイアン・ボストリッジが、シューベルトが遺した歌曲を集めた歌曲集「白鳥の歌」を、また、音楽堂と固い絆で結ばれたヴァイオリニスト、ファビオ・ビオンディが、ヴァイオリン音楽の旧約聖書とも呼ばれるJ.S. バッハの「無伴奏ヴァイオリンソナタ&パルティータ」全曲を取上げ、いずれも高い評価を得た。ボストリッジ公演は、NHK・BSクラシック倶楽部で全国放送された。また、共催事業として、「イ・ムジチ合奏団」及び「ジョルディ・サヴァール&エスペリオンXXI」を誘致。両公演とも満席となった。

「子どもと大人の音楽堂」シリーズでは、神奈川・横浜の地域課題の一つである多文化共生をテーマに、中国語、英語、ポルトガル語などの言語サポーターや、地元当事者のグループによるパフォーマンスなどによる「子どものための音楽堂 せかいはともだち！」を開催。大人向けで3回目の開催予定だった「大人のための音楽堂 音楽堂のピクニック」は、諸般の事情で公演中止となったが、これまでよりも長い期間をかけて準備し、令和6年度の開催を目指すこととなった。

従来の表現・思考のスタイルにとらわれない新しい表現を紹介するシリーズ「新しい視点」では、公募プログラム「紅葉坂プロジェクト」で令和4年度に審査・採択した企画案の本公演を実施するとともに、令和6年度実施に向けた新たな企画公募・審査・ワークインプログレスを実施した。リコメンドプログラムとして、世界で活躍するヴァイオリニスト、庄司紗矢香と劇作家・演出家の平田オリザとのコラボレーションによる「庄司紗矢香 音楽とことば 未来への回帰」公演を実施。

「音楽・空白・ことば」による新しい鑑賞体験を創造した。

その他、幅広い年齢層の県民合唱参加による「ヘンデル「メサイア」全曲」演奏会、教員に向けた「先生のためのアウトリーチ」、6名の学生のインターンシップを受け入れた「音楽堂制作・広報インターン」、近隣施設と提携した「紅葉ヶ丘まいらん」等の取組で、次世代の人材育成や、地域に開かれ音楽文化の振興をはかる公共ホールとしての役割を追求した。

[参考：自主事業]

事業計画の主な内容	実施状況等
リフレッシュ・サービス (実施目的) 主催事業公演等開催時に、来館者サービスとして、ホール内ビュッフェやロビー、ホワイエ等で飲食物等の販売を行い、来場者に開場時間や休憩時間も快適に楽しく過ごしていただくことを目的とする。	新型コロナウイルス感染症にかかるガイドラインが撤廃されたことに伴い、7月29日の主催事業「子どものための音楽堂 せかいはともだち！」でキッチンカーを稼働。また、8月3日、11月3日、令和6年1月24日に行った「街なかトークカフェ」でドリンク提供を行なった。 12月10日開催の「ヘンデル「メサイア」全曲」以降の主催公演では、1月、2月と県内福祉作業所による手作りパンや菓子の販売を行った。

6. 利用状況

評価	《評価の目安》 目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上 A：100%以上～110%未満 B：85%以上～100%未満 C：85%未満
C	

	前々年度	前年度	令和5年度
利用者数※	51,476	80,941	111,662
対前年度比		157.2%	138.0%
目標値	99,600	116,200	132,800
目標達成率	51.7%	69.7%	84.1%

目標値の設定根拠： 経営改善目標（第6次経営改善計画内）

利用者数の算出方法（対象）： 主催事業は指定管理者が確認、共催・貸館事業は主催者からの報告による（対象者：施設への来館者、利用者）

※原則は人数だが、施設の状況等により変更可能。単位を変更した場合はその理由

<備考>
令和2年度第3回第三セクター等企画推進部会（令和3年3月29日開催）における経営改善目標の策定の中で、提案時の目標値を一部変更し、今後5年間（令和3年度～令和7年度）の目標値を設定した。
※利用者は公演の来館者を指す。

8. 収支状況

評価	≪評価の目安：収支差額の当初予算額が0円の施設≫ 収入合計／支出合計の比率が、S(優良)：105%以上 A(良好)：100%～105%未満 B(概ね計画どおりの収支状況である)：85%～100%未満 C(収支比率に15%を超えるマイナスが生じている)：85%未満
A	

[指定管理業務]

(単位：千円)

		収入の状況					支出の状況	収支の状況	
		指定管理料	利用料金	その他収入	その他収入の主な内訳	収入合計	支出	収支差額	収支比率
前々年度	当初予算	214,804	25,502	57,345	備考のとおり	297,651	297,651	0	
	決算	214,804	24,998	68,190	備考のとおり	307,992	317,922	-9,930	96.88%
前年度	当初予算	216,405	30,298	86,144	備考のとおり	332,847	332,847	0	
	決算	216,405	28,944	101,935	備考のとおり	347,284	362,523	-15,239	95.80%
令和5年度	当初予算	217,603	35,348	65,011	備考のとおり	317,962	317,962	0	
	決算	217,603	34,679	42,083	備考のとおり	294,365	293,320	1,045	100.36%

※支出に納付金が含まれる場合、その内数

(単位：千円)

令和5年度 / 前年度 / 前々年度 /

<備考>

【その他収入の主な内訳】

(前々年度・当初予算) 事業収入：22,140、補助金等収入：17,570、特定資産取崩収入：14,216 等
 (前々年度・決算) 事業収入：9,270、補助金等収入：36,376、特定資産取崩収入：15,089 等

(前年度・当初予算) 事業収入：40,461、補助金等収入：21,565 等

(前年度・決算) 事業収入：42,528、補助金等収入：33,068、特定資産取崩収入：17,395 等

(令和5年度・当初予算) 事業収入：27,936、補助金等収入：21,000 等

(令和5年度・決算) 事業収入：26,829、雑収入：5,806、他事業からの繰入金収入：5,500 等

9. 苦情・要望等 該当なし

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	電話	1 件	携帯が鳴らないようにするシステムを導入してほしい。	当館の予算状況等により携帯電話抑制装置の導入には至っていないが、今後の要望にかんがみ検討していきたい。
		件		
職員対応		件		
		件		
事業内容		件		
		件		
その他	対面	1 件	申込み、事前打合せをメール等で簡略化してほしい。	事前打合せは、催しの安全で円滑な運営のために実施しているもので、無くすことはできないが、要点を押さえて進めることを心掛けていきたい。 ネット申込みについては、開発経費及び高齢者の多い利用者にとっての使いやすさという課題に留意しつつ、検討していきたい。
	対面	1 件	WEB予約を可能にしてほしい。	

※指定管理者に起因するものを記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

10. 事故・不祥事等 該当なし

発生日	①発生時の詳細な状況 ②県職員による確認の状況（内容及び実施日を記入） ③その後の経過（現在に至るまでの負傷者の状況、再発防止策等） ④施設に対する問題点の指摘やクレームの有無（有の場合は概要を記入） ⑤原因及び費用負担の有無（費用負担が有の場合は内容および負担者を記入） ⑥記者発表の有無（有の場合はその年月日を記入）
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事について改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。

11. 労働環境の確保に係る取組状況

確認項目	指摘事項の有無	備考
法令に基づく手続き	無	
職員の配置体制	無	
労働時間	無	
職場環境	無	

※指摘事項は、県による監査（包括外部監査含む）又は労働基準監督署によるものとし、有とした場合は備考欄に概要を記載。